

まだまだ気をつけましょう！ 食中毒の予防

食中毒が起こるほとんどの原因は細菌です。食中毒予防3原則を守りましょう。

1 清潔

石けんで手洗い、まな板や包丁は熱湯消毒、ふきんや食器を清潔にしましょう

2 迅速

調理後は早めに食べ、常温で長時間放置しないようにしましょう

3 加熱または冷却

冷蔵庫や冷凍庫を活用し、肉や魚などは十分に加熱しましょう。

対象治療
体外受精および顕微授精（ただし、県が指定する医療機関での治療に限ります）
対象者
・法律上の婚姻をしている夫婦
・夫または妻が市内に住所を有している方
・夫および妻の前年の所得の合計額が730万円未満の方

不妊治療を支援します 特定不妊治療費の助成

市では、4月から特定不妊治療の助成額を引き上げるとともに、助成制度を充実させて、利用者の経済的な負担の軽減を図っています。

問合せ先

健康推進課
35-3160

助成額・期間
1回あたり30万円を限度に、初年度は3回まで、2年度以降は年2回まで、通算5年（通算で10回を超えない）
*県特定不妊治療費助成事業による助成額15万円を超える額が対象

8月1日から開始しています

子宮頸がん予防ワクチンの対象者と保護者を対象とした講演会を開催！

市では、子宮頸がん予防ワクチン接種の助成を行っています。

この予防接種は、法律に義務付けられた予防接種ではなく、対象者と保護者の希望による任意の予防接種です。この助成制度はワクチンの副反応があることや予防効果等を十分に理解された上で、接種を希望される方に対し助成するものです。

市では、ワクチンの副反応に配慮して、ワクチン接種を受ける場合には、保護者（都合がつかない場合は、委任状を持参の上、接種対象者の健康状態をよく知っている祖父母や親族など）の同伴を必要としています。

対象者 中学校1年から高校1年に相当する年齢の女子
標準的な接種 3回接種（初回接種後、1カ月後と6カ月後）

子宮頸がん予防ワクチンの対象者と保護者を対象とした講演会を開催！

子宮頸がんの予防は、ワクチン接種だけでは十分ではありません。また、ワクチン接種には副反応もあります。子宮頸がんについて正しい情報を知っていただくため、中学1年から高校1年に相当する年齢の女子とその保護者を対象として講演会を開催しますので、ぜひご参加ください。

演題 子宮頸がんの予防について～検診とワクチン接種～（ワクチンの効果や副反応の説明もあります）

講師 脇田勝次さん（高山赤十字病院産婦人科部長）

期日 9月7日（水）

時間 午後7時～8時

場所 市保健センター（花岡町2）

※入場無料です

申請方法 助成を受けるためには、事前に申請し、予診票を受け取ってください。
*高校1年の方が年度内に接種を完了するためには、今月中に初回接種を行う必要があります。希望される方は早めに申請してください。
日時 平日の午前8時30分～午後5時15分
場所 市保健センター、各支所地域振興課（支所で申請さ

れた場合、予診票は後日郵送となります）
持ち物 母子健康手帳、健康保険証
接種方法 予診票を受け取り、医療機関で予約をする（接種可能な医療機関は広報たかやま8月15日号に掲載されています）ほか、申請時にもご案内します。

問合せ先

健康推進課
35-3160